

福島第一原子力発電所 1号機 建屋カバー解体工事の進捗状況について



東京電力ホールディングス株式会社

2016.04.28

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

目的外使用・無断複製・転載・開示禁止 東京電力ホールディングス株式会社

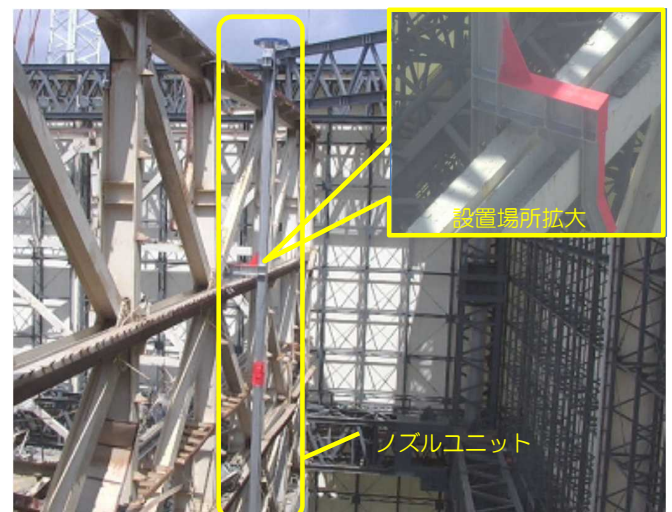
建屋カバー解体工事の進捗状況



- 建屋カバー解体工事は、2月4日より、散水設備（散水ノズルまでの配管設備等）工事を開始し、4月6日よりオペレーティングフロア上に設置する散水設備のノズルユニット設置を開始
- 4月25日現在、ノズルユニット13体設置の内、11体（東面5体、西面6体）設置済
- その間、作業に伴うダストモニタ・モニタリングポストに有意な変動、警報発報はなし



ノズルユニット吊り上げ状況



ノズルユニット設置状況（東面）

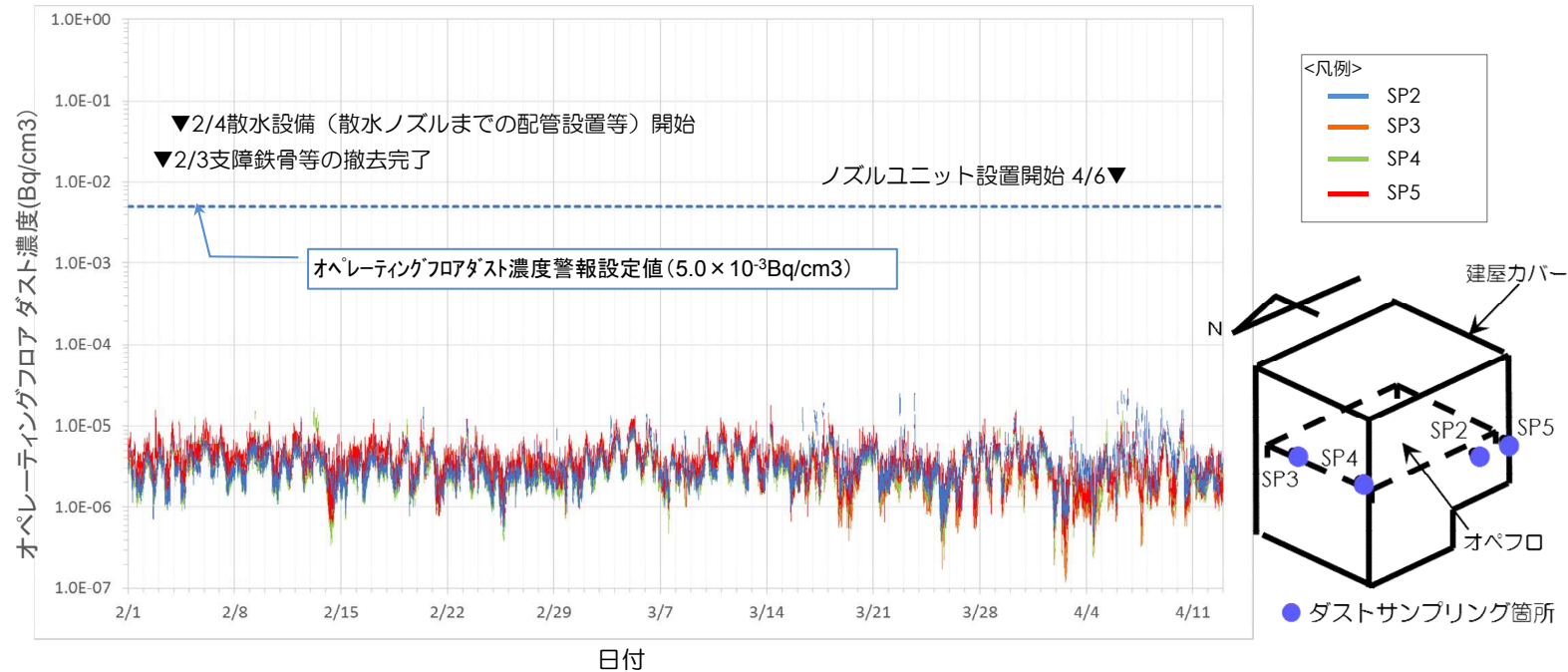
1号機建屋カバー解体工事の作業状況写真

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

目的外使用・無断複製・転載・開示禁止 東京電力ホールディングス株式会社

- オペレーティングフロアの各測定箇所における、2016年2月1日～2016年4月12日までの「空气中的放射性物質濃度」を以下のグラフに示す
- 各作業における空气中的放射性物質濃度
 - オペレーティングフロアダスト濃度警報設定値* ($5.0 \times 10^{-3} \text{Bq/cm}^3$) に比べ低い値で推移した

* 敷地境界モニタリングポスト近傍のダストモニタ警報値より設定した公衆被ばくに影響を与えないように設定した値



©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

目的外使用・無断複製・転載・開示禁止 東京電力ホールディングス株式会社

建屋カバー解体工事の流れ

- 今後の建屋カバー解体工事の流れは、以下のとおり。なお、建屋カバー解体期間中、定期的に飛散防止剤を散布(1回/月)する

準備工事
解体に必要な装置、クレーンの整備

完了

• 飛散防止剤散布 (屋根貫通散布)

完了

• 屋根パネル1枚目 取り外し
• オペフロ調査

完了

• 屋根パネル1枚目 取り外し部分から 飛散防止剤散布
• オペフロ調査

完了

• 屋根パネル残り 5枚の順次取り外し
• オペフロ調査
• 風速計設置

完了

• オペフロ調査

完了

• 支障鉄骨撤去 (散水設備設置のため)

完了

• 散水設備の設置
• 小ガレキの吸引

• 壁パネル取り外し前の 飛散防止剤散布

• 壁パネル取り外し
• オペフロ調査

• 防風シート取付等 (壁パネル解体後取付)

現在実施中

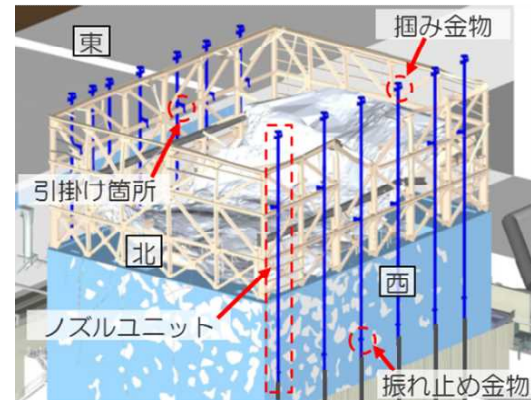
- 4月6日よりノズルユニット（散水ノズル）の設置を開始
- 4月26日よりオペフロ調査（南東側よりポールカメラ挿入）を開始予定
- 小ガレキ吸引を6月上旬開始予定

2015年度				2016年度							
2月	3月		4月		5月		6月		7月	8月	9月
	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半			
飛散防止剤散布（定期散布） ▼-2/17		▼-3/17		▼-4/21							
散水設備設置 ▼2/4~	散水ノズルまでの配管設置等										
			▼4/6~ ノズルユニット（散水ノズル）設置								
		ガレキ状況の先行調査 ▼3/28~4/7						小ガレキ吸引			
					オペフロ調査（南東側よりポールカメラ挿入）				壁パネル取り外し	壁パネル取り外し	壁パネル取り外し
											屋根パネル解体

※他工事との工程調整、現場進捗、飛散抑制対策の強化等により工程が変更になる場合がある

散水設備設置 ノズルユニットの設置状況

- 4月25日現在、ノズルユニット13体設置の内、11体（東面5体、西面6体）設置済
 - ノズルユニットは、東面7箇所、西面6箇所、計13箇所設置
 - 散水ノズルは2種類（散水量：約15ℓ/min、約22ℓ/min）を使用



散水設備イメージ（鳥瞰図）



吊り上げ状況（東面）



設置状況（東面）



吊り上げ状況（西面）

ノズルユニット設置状況写真

■ 目的

ダスト飛散の要因となりうる、崩落屋根上のルーフブロック等の小ガレキを壁パネル取り外し前に吸引※し、ダスト飛散を抑制する
※燃料取り出しプール（SFP）上部を除く

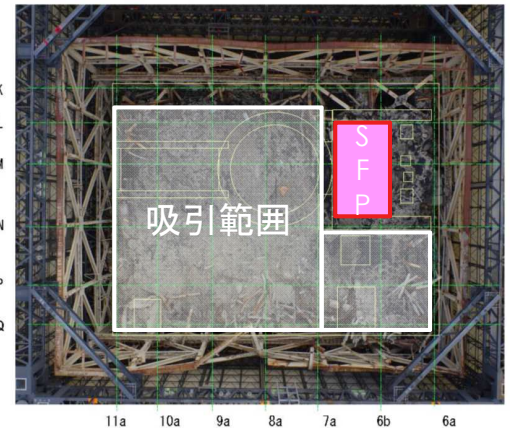
■ 作業中における監視体制

空気中の放射性物質濃度は、オペレーティングフロアのダストモニタ等で常時監視

■ 緊急対応

各種ダストモニタ警報発報時、飛散防止剤の緊急散布又は、飛散防止剤散布装置を用いた緊急散水を実施

■ なお、ガレキ状況の先行調査（P7）で、調査範囲の小ガレキ吸引作業を行ったが、その間、ダストモニタ・モニタリングポストに有意な変動はなかった



小ガレキ吸引範囲



©Tokyo Electric Power Comp. 小ガレキ吸引装置 rved.



目的外使用・無断複製・転載・開示禁止 東京電力ホールディング 小ガレキ吸引作業中

ガレキ状況の先行調査[速報]

- 3/28～4/7にかけ、崩落屋根下のガレキ状況調査のために準備した、調査手法・調査装置が適用できるかを実機で確認
- コア抜きしたスラブに能動スコープカメラを挿入し崩落屋根下のガレキ状況を確認
- 現在、調査結果の精査中であり、精査後、本格調査の検討を進める

①小ガレキ吸引



②防水層剥がし



③調査孔の削孔



④能動スコープカメラ調査

